

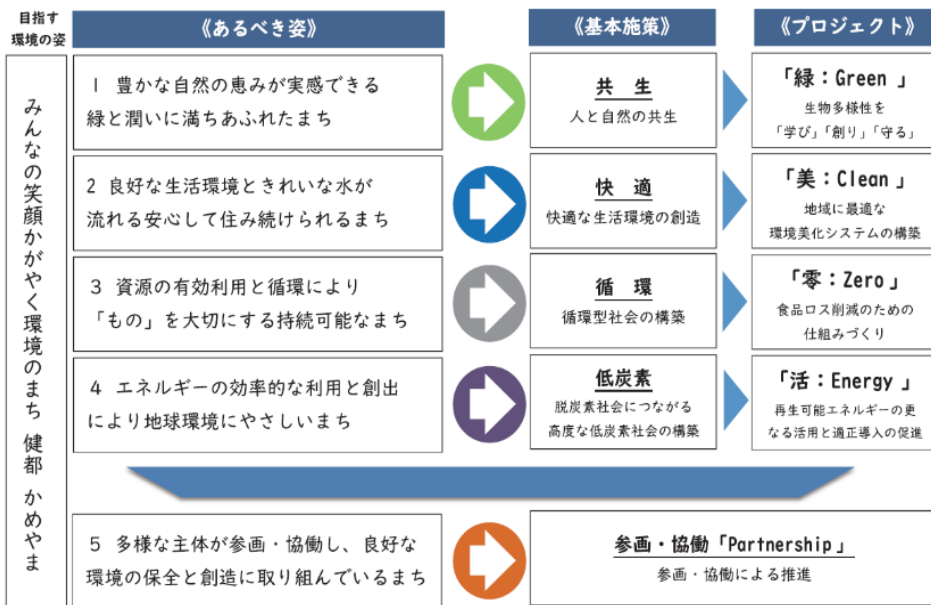
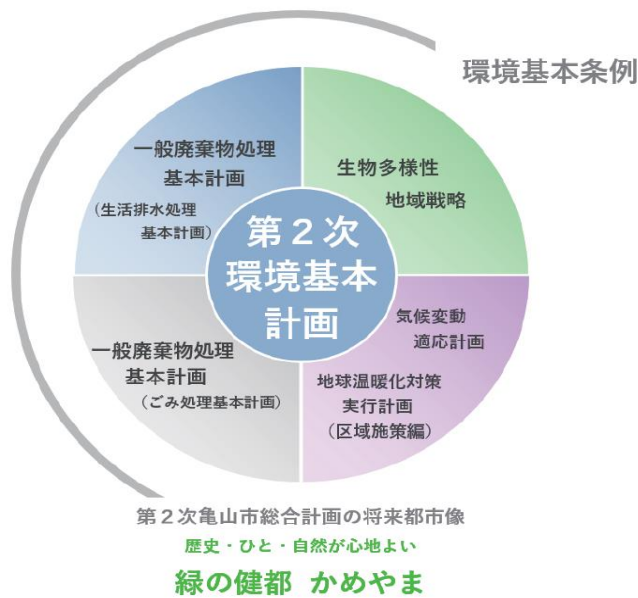
第2次亀山市環境基本計画に関する実績等報告書(令和3年度)

(産業環境部 環境課)

■計画の基本情報

計画期間	R 3 ~ R 12 年度
位置付け	本計画は、亀山市環境基本条例第8条第1項の規定に基づき策定したものであり、環境政策を横断的かつ総合的に推進するため環境関連の5計画を内包した。また、第2次亀山市総合計画前期基本計画との関連は、基本施策「低炭素・循環型社会の構築」、「自然との共生」と関わるものである。
目的・概要	本市の環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市民の健康で安全かつ快適な生活の確保と福祉の向上に寄与することを目的とする。 本市が目指す10年後の環境の姿として「みんなの笑顔かがやく環境のまち 健都 かめやま」を掲げ、5つの基本施策や4つのプロジェクトにより具現化を図る。

計画の骨格



■ 成果指標

成果指標名		単位	現状値	実績値 (R3)	目標値
1	別紙参照				
2					
3					
4					
5					

■ 計画の実績等

取組実績	<p>市民に自然と触れ合う機会や学習する機会を提供するため、里山塾、ザリガニ釣り大会、亀山7座トレイル(登山講座)等のイベントを開催した。市内の主要事業所、河川、ため池において、水質検査、騒音・振動測定を行うとともに、公共下水道事業の推進により、生活排水処理施設の整備を行った。一般廃棄物に占める紙類及び厨芥類の割合が高いことから、令和3年4月に雑がみの分別収集を開始し、これまで一般ごみとして溶融処理していた紙類等を資源化し、ごみ減量化とリサイクルに取り組んだ。地球温暖化の防止につながる『緑のカーテン運動』に取り組んでいただくため、ゴーヤのポット苗を希望者に配布した。</p> <p>当該計画の推進を図るにあたり、市民、事業者及び関係団体等から幅広い意見を反映するため、環境未来創造会議及び基本施策ごとの部会を設置した。</p>
成果	<p>自然環境に関するイベントを開催したことにより、生物多様性に関する周知・啓発に貢献できた。新たに市内に立地した事業所などと環境保全協定を締結するとともに、市内の主要事業所、河川、ため池において、水質検査、騒音・振動測定を行ない監視することにより鈴鹿川の水質を維持した。自然環境生活排水処理率が、公共下水道事業井田川・能褒野処理分区他4処理分区の供用開始により、大幅に向上した。一方、1人1日あたりのごみ排出量は横ばいであったが、雑がみ及びその他びんの分別収集を開始したことで市民のごみ分別意識が高まり、ごみの資源化率が向上した。</p> <p>そして、第2次市環境基本計画を推進するための会議及び部会を設置したことにより、当該計画の推進体制が確立できた。</p>
総合計画 推進への 寄与度	<p>里山管理運営協議会等と連携し、自然公園を活用して市民に自然と触れ合う機会等の提供をしたものの、新型コロナウイルスの影響によりイベント等参加人数は激減した。新たな資源ごみとして雑がみ及びその他色びんの分別収集の開始や市民の資源物集団回収活動により、ごみの資源化率は前年度比2.2ポイント増加した。また、1人あたりのごみ排出量は、食品ロス削減の啓発や3Rの推進により前年度比26g減少し、ごみの減量化とリサイクルの推進に寄与した。</p>



反省点・課題	<p>新型コロナウイルスの影響もあるが、自然環境イベントや環境に関する講座等への参加人数が減少した。一般廃棄物に占める紙類の割合は、4割程度と依然として高い。食品ロス削減は周知啓発に留まり、より効果的な方法に取り組む必要がある。</p>
--------	--



今後の方向性	<p>環境イベントや講座への参加人数を増やすため、さらなる環境関連イベントを開催し、幼稚園、保育園、学校等に参加を呼び掛ける。ごみ減量化・リサイクルの推進を図るため、さらに雑がみ等の分別収集を周知し、厨芥類は食品ロス削減に取り組む等により3Rを推進する。</p>
--------	---

■成果指標

現状値及び目標値 … 第2次亀山市環境基本計画(2021～2030) 各基本施策成果指標参照

成果指標名		単位	現状値	実績値 (令和3年度)	目標値
1	自然環境に関するイベント等に参加した人数等	人	8,563	3,406	9,500
2	外来生物の駆除に取り組む市民活動団体数	団体	3	2	8
3	間伐面積(平均)	ha	183	154	200
4	環境美化ボランティア登録団体数	団体	31	33	40
5	環境保全協定の締結数	件	77	81	100
6	生活排水処理率	%	81.4	88.8	92.1
7	1人1日あたりのごみ排出量	g/人・日	943	945	880
8	ごみの資源化率	%	30.8	31.5	38.0
9	溶融飛灰の資源化率	%	100	100	100
10	市域における二酸化炭素排出量	(千t-CO2)	1,322	1,327 (令和元年度)	1,156
11	再生可能エネルギー発電施設の導入件数	件	2,662	2,838 (令和2年度)	3,500
12	環境に関する講座等への参加人数	人	3,184	1,874	3,500
13	環境関連分野において連携・協働による取組を行っている団体(組織)数	団体(組織)	13	21	20